



阿波おどり会館
阿波おどり会館では1年中、阿波おどりの公演が見られ、徳島土産のショッピングも楽しめます。5階は眉山ロープウェイ山麓駅です。



眉山頂上
山頂展望台からは市街地や吉野川の河口が一望できます。また、よく晴れた日には大鳴門橋や明石海峡大橋も見えます。



ひょうたん島クルーズ
「新町川を守る会」理事長の中村英雄さんはロケにも協力され、咲子と寺澤が川沿いを肩を寄せ合って歩くシーンは中村さんが操船する船の上から撮影されたそうです。

乗船約30分、乗船料：大人(中学生以上)400円、小学生以下200円

龍子と咲子の会食シーンが撮影された名門料亭。約1,000坪の庭園を眺めながら食事が楽しめます。予約すればランチメニューも。また、利用状況によってはロケの座敷への案内も可能です。

涓水苑 いすいえん
徳島県徳島市沖浜東1-54
TEL 088-626-0080
営業 11:00~13:00、17:00~20:00
休 月曜日・火曜日(祝日は除く)
水曜日はディナーのみ(祝日は除く)
※定休日・営業時間等詳しくはお問い合わせください。
P あり



眉山の緩やかな稜線を眺め、最愛の人を想う。

母の生き方と娘の恋を見つめながら親子の情愛を描いた映画『眉山』。そこには徳島の伝統文化である阿波人形浄瑠璃の名作『傾城阿波の鳴門』の物語がそっと重ねられています。

映画『眉山』のロケ地へ 徳島県 徳島市



【物語】母の手ひとつで育てられ、今は東京で暮らす咲子。ある日、母の龍子が入院したと聞き、郷里の徳島に帰るが、末期がんで余命数ヶ月と告げられる。さらに自らの出生の秘密や死別したはずの父が東京にいることを知り、神田生まれの母が咲子と徳島で暮らしてきた理由に向き合うこととなる。
『眉山ーびびー』好評発売中 / 発売元:フジテレビジョン・東宝 / 販売元:東宝

映画の伏線となった阿波人形浄瑠璃

映画の中にはいくつか人形浄瑠璃にまつわるシーンが出てきます。龍子が病院のベッドで朗々と浄瑠璃を語り、高校生の咲子に父のことを告げる場面ではテレビに映った人形が効果的に使われています。どの場面でも演じられているのは、幼い娘が巡礼姿で生き別れになった両親を訪ね歩く『傾城阿波の鳴門』。とさんの名は十郎兵衛の台詞で有名な人形浄瑠璃の代表作です。

なかでも極めつきのシーンは死を覚悟した母と娘がそれぞれの想いを胸に一緒に人形浄瑠璃を観劇する場面です。この場面が撮影されたのは徳島県立阿波十郎兵衛屋敷。まさしくここは、『傾城阿波の鳴門』のモデルとなった板東十郎兵衛屋敷跡に立つ文化施設です。館内には阿波人形浄瑠璃に関する貴重な資料が展示され、その成り立ちや歴史などを学ぶことができます。さらに、徳島県内の人形座の方々によって毎日、国の重要無形文化財・阿波人形浄瑠璃がライブで上演されています。観劇の後は人形と記念撮影をしたり、人形遣いの方に質問をしたり、貴重な体験が楽しめます。また、敷地内に現存する母屋や純日本式庭園「鶴亀の庭」も一見の価値があります。ロケ地として訪ねるとともに、阿波人形浄瑠璃に触れて、映画をより深く味わってはいかがでしょうか。

物語を美しく彩る水の都徳島の景観

「眉山をあのの人だと想って、おまえと二人、ここで生きていこう」。
龍子の言葉の通り、眉山が見える徳島の町々でロケが行われました。咲子が母の主治医 寺澤と歩く雨上がりの新町川水際公園。阿波おどりの総踊りを再現し、映画のクライマックスを飾った南内町・徳島こども交通公園。美しい庭園を背景に母娘が食事をする涓水苑。どの場所も、感動の場面がよみがえります。
ロケ地や観光スポットを川沿いに巡るおすすめのコースに「ひょうたん島クルーズ」があります。長年、川の清掃活動をつづけるNPO法人「新町川を守る会」が、水都・徳島を川から見てもらおうと遊覧船によるクルージングをスタート。市内中心部をぐるりと一周する間に、船上から眺める町並みや眉山の姿は格別です。



映画の撮影が行われた座敷。四季折々の表情を見せる庭園を背景に贅沢な時間が過ごせます。



阿波十郎兵衛座・座長の高野文子さんは、ロケ当時は当館の職員でした。映画の中でもとくに重要なシーンの撮影とあってエキストラの方々も緊張気味だったそうです。高野さんは人形遣いとして当館の舞台でも活躍中。人形浄瑠璃は毎日上演されています。

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

徳島県徳島市川内町宮島本浦184
TEL 088-665-2202
営業 9:30~17:00(7/1~8/31は18:00まで)
【定期上演】1~2月 11:00
3~12月 11:00、14:00
【8/12~8/15】10:00、11:30、13:30、15:00
※上演時間等変更する場合があります。事前にお問い合わせください。
休 12/31~1/3 P あり
※上記のほか臨時休館する場合もあります。



母親のお弓は、巡礼が娘のお鶴と知りますが、災いに巻き込まれることを案じ、涙をこらえて名乗ることをとどめる見せ場のシーン。